

第7回城東学園新たな学園づくり地域検討委員会 概要

日 時	平成30年12月13日（木）午後7時 ～ 午後8時30分
場 所	大東北公民館
出 席	委 員 22人（欠席者8人） 事務局 教育長、教育部長、教育政策室長、教育政策室係長、 学校教育課指導主事、教育政策室主任
内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 委員長あいさつ</p> <p>4 報告事項 第6回地域検討委員会について</p> <p>5 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長から学園化の取組、地域検討委員会の役割について説明 ・事務局から報告書（案）の内容について説明 ・報告書（案）についての意見、感想 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆さんで作ってきたものが形になって現実味を帯びていくということが分かってきた。学園化構想を始めるための委員会の時には、何をまとめればどういう形になるのかも全然分からなかったが、コーディネーターを中心に地域のボランティアが集まり、地域全体で子どもたちを支え、育てていこうということを基盤とするということを話し合った。その時は、ボランティア登録って何だということから始まった。今は、ボランティアの方のおかげで子どもたちが学校の中で生き生きと生活できている。 ・今日の事例集のような学校が自分たちの地域に実現して、これからの世代の子どもがより良い環境で生活できたり、中央小の子どもたちのようにテストの結果がよくなったりするなどの現実が見えてくれば、魅力ある地域になる。この学校に入るために住んでみたらどうか、この学校で学べて、近くに地域との交流施設があるということがより良い地域づくりにつながっていく。廃校になるという不安もあるかもしれないが、各小学校は地域のコミュニティーの場として残していただき、地域の皆さんに分かっていただきながら形になっていけばとすごく思っている。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色々とグループトークなどを行い、学校がなくなると寂しい等の意見も出された中で、他の学校の視察をし、これからどのような形の学校がよいのかという協議を重ねた上で、良い方向にまとまってきていると思う。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だんだん学校全体の絵が見えてきた。子どもたちがより過ごしやすくなればよいと思う。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国に小中一貫の学校がたくさんあるということを教えていただいて、すごいなと思っている。シオーネで小中一貫教育の中間発表を聞かせてもらったが、何回も伺って、自分が最初に思っていたよりも少しずつ分かってきたかなということを感じつつ、今日はこの事例集がすごいと感じている。 <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約1年間携わってきて、城東学園の未来が少しずつ見えてきたかなということが報告書を見てよく分かる。地域の人をもっと理解できるように付け加えていった方がよいと感じている。この内容では難しすぎる、一回聞いただけでは分からない。 	

【委員】

- ・1年前にここに来た時に、1年後にこの話がまとまるのかという雰囲気は最初にあった。全く状況も分からない中で参加したが、校舎が古いことは思っている、どれくらいということは分からなかった。子どもが少なくなっているということを感じている、数値を見て、「こんなに減っているんだ。」ということも分かった。数を重ねて参加し、色々な状況が見えてきた。少子化でこの辺は不便だということで、町の方に出て行ってしまう傾向もあるので、こういう計画があり、だんだん良くなるんだという情報を皆さんにお知らせして、この地域を良くしていきたいと思う。

【委員】

- ・この提言の中味については委員長が言ったとおり、イメージ的にはできている。委員長から小中一体型の学校について説明をしてもらったが、その部分をもう少し具体的にこの中に表記をしないと、各々が好き勝手に一体型をイメージしてしまう。そういうところを配慮していただくとよいのではないかなと思う。
- ・参考資料を見せてもらった中で、中学校の校長先生から小中学校で授業時間が45分と50分で異なるという話だったが、資料の中では1番目の学校では小中ともに45分でやっている。他の学校は45分と50分となっている。何か解決方法があるのではないかなと思う。
- ・たくさんの資料を作ってくれて参考になる。すべてを城東学園に入れてとは言えないけれど、小中一体型については、もう少し細かく、具体的に、小中一体型としてこんな形態も考えているということを示唆していただければよいと思う。

【委員】

- ・初めに聞いた時は全然形が分からなかったが、何回か出席して形が見えてきた。この会にいるから見えてきたが、関わっていない人は分からないと思う。今後どのように進めていくのかを入れていただければよいと思う。

【委員】

- ・中小学校は現在1学年20人くらいの学校で、昔は1学年1学級で、40人くらいであった。その頃、佐東と土方は1学年80人くらいで、2学級の小学校だった。中学校に入って、1学年5クラスになった。中学校に入って田舎から町へ来たように感じた。このままいくと複式学級になるくらいしか子どもがいない。複式学級というと、テレビで見る離れ小島の学校のような学校で、他人事のように感じていた。いざ、現実に関心する自分の地区がそうなっていくというのは厳しく、今まで思ったことがないような感じを受けている。これからの教育をどう考えていくか、現実を突きつけられたような気持ちでいる。

【委員長】

- ・2月に報告書の案について説明会を行うということだが、どうしても報告書は堅い形の文章表現になってしまうので、説明会ではできるだけ保護者や地域の方がイメージを浮かべやすく、聞いてワクワクするようになればと思う。こんな学校ができるのか、城東に住んでいてよかったと、帰りに思ってもらえるような内容になったらよい。参加者を多くする工夫も必要である。
- ・学校の中味のこと、授業時間やスクールバス、制服のこと、地域の人が使え施設が付随しできるのかなど、様々なことを地域、保護者の方とこれから考えて作っていくことになる。教育行政の一方的な考えで作るのではなくて、地域や保護者の意見もしっかり聞いて作っていくという安心感を持って終われるような、そんな会になるとよいと思っている。

【副委員長】

- ・地域検討委員会として皆さんがこれまで努力してきたことについてはまことに結構なことだと思う。しかし、この1年間を通じて、地域の意見交換会が公民館で1回と各小学校で1回説明会があった。その程度であって、本当にこの間に地域の意見、特にこれから小学校に入学する乳幼児のお父さん、お母さん、そういう人たちの意見が届いているのか。学校の統廃合が目的ではない、小中一貫教育が目的なことだったが、結局は統廃合という形になってしまうと思う。小学校がなくなる地域のコミュニティが続けられるのか、不安に思っている。住民が地域で支え合い安心して生活できる権利が奪われていくような思いがする。子どもが少子化になって少なくなっている。統合して大きな学校にして、切磋琢磨して教育を受ける権利を保障するという話を聞いたが、大勢の人たちの中で競争的に授業をするように思えてならない。一番の問題は、この問題が地域の検討委員会という集まりで行っているが、もっと地域のいろいろな人に対して意見を聞くということが大事なのではないかと思

う。今日、小中一貫教育を実施する学校施設の整備例を紹介していただいたが、小中一貫教育を実施して地域の人たちはどうなったのか、子どもたちの教育はどうなっていったのか、今先生がすごくたいへんな状況だと聞いているが、労働条件が改善されてきているのか、もう少し詳しく教えていただけたらよかったと思う。

【委員】

- ・ あっという間の1年間だった。保護者から「先生、結局どうなったの。」と聞かれた時にすぐにちょっと返事ができなかった。今日、この検討委員会の目的を見て、小学校統合ありきではない、ということもある中で、城東学園にとって最もよい学校の在り方は何なのかというときに、小中一体型が提言されている。その中で、先行事例ということではいろいろな全国的な学園の写真をを見せていただいた。こういうのを見ると地域の方も納得しながら、こんな学校にしていきたいなという夢や思いが膨らんでいくのかなということが、カラーの写真をを見せていただいて強く感じた。

【委員】

- ・ 4月から参加して、地域コーディネーターや、まち協、子ども育成支援協議会の会合に参加するようになって、やっと地域コーディネーターが園・学校と地域をつないでいることや、ボランティアさんが助けてくれていること、教育委員会やいろいろなところの支援を受けて、このようなシステムになっていることが分かってきた。15年間を見通した一貫性のある教育をみんなで考えているということがだんだん分かり、いきなり形というのは難しいが、課題等の前例があれば、教えてほしいということももっともな意見だと思った。
- ・ 幼稚園・保育園との連携について、小中だけでなくその下の幼保とどのように絡んでいったらよいのかということもある。現在、城東の幼稚園と保育園は4園あって交流はしているが、それぞれの園で保育をしているので、一緒にやっていかななくてはいけないということも考えている。幼稚園、保育園との連携もしていかないといけないと改めて思う。

【委員】

- ・ 学校では小中一貫教育を進めていて、「城東を愛し未来をたくましく生き抜く子どもの育成」を大きな目標として取り組んでいる。来年度から中学校も小学校もこの目標を学校教育目標にすることで、一つの目標に向かって子どもたちを育てていくということを決めた。自分たちの目指しているところの最後の部分が、形になってくると明確になる。
- ・ 一体型という方向になるのであれば、しなければいけないことが明確になり、一貫カリキュラムについても良さを引き出せ、より具体的に小中一貫教育が進むと思う。
- ・ 学校ではソフト面を行っているが、先ほども話があった校舎などのハード面も含めて考えると、子どもたちや地域、保護者の皆さんだけでなく、勤務する教職員が城東学園に勤めていることを自慢できる。こんな学校に行っているということをお話できるような学校を作っていかなければいけない、ということをお話を聞いていて改めて強く思った。

【委員】

- ・ 今年コーディネーターになり、こういう会議に出たのも初めての中で、皆さんの話を聞いて、数年前にボランティア登録をしたことがあったことを思い出した。登録しただけで何の動きもなかったもので、何のためにやったんだろうとずっと思っていた。しかし、ずっと続いていて今日に至っているということが分かった。
- ・ 今、大坂のこども園の素晴らしい建物ができてきている。こども園ができるという話が出てきた時に、保育園と幼稚園が一緒になることが本当にできるのか、困ることがいっぱいあるのではないかと不安があった。しかし、あの建物を見て、ここでたくさん子どもたちが一緒に生活できるんだと思うだけでワクワクしてくる。それは、自分たちのところでも3校が一緒になってみんなで生活できたらすごく楽しいだろうな、というふうに自分の気持ちが変わってきたと確信している。最初は小さい学校から大きな学校になっていろいろな不安もあるし、一緒にしなくてもよいのではないかと思ったが、皆さんの意見を聞いたり、資料を見たりしている間に、すごく魅力のあるものに見えてきた。小さいものを大きくするのはとても大変だけれども、大きなものの中で小さく分けて考えてみようとする方がうまくいく。学校が大きくなって、子ども的人数も多くなるが、それを少しずつ分散して色々な形態で勉強や生活ができるというのは、魅力がいっぱいあるのではないかと今は思っている。
- ・ 地域コーディネーターがなかった時はどうだったのか。地域コーディネーターの存在がこんなに大きなものかと改めて思っている。

【委員長】

- ・コーディネーター制度がなかった時には、学校が直接交渉したり、教育委員会に探してもらったりしていた。とても大変だった。コーディネーターのおかげですごくやりやすくなった。

【委員】

- ・具体的な内容になるが、小中一体型の学校を整備することとあるが、施設隣接型と一体型はどう違うのか。

【委員長】

- ・隣接型は道を隔てている、城東学園における幼稚園と小学校がそうだが、学校と学校の間が植え込みやフェンス等で区画されているものをいう。
- ・浜松の付属小中学校は、同じ敷地の中にグラウンドで隔てる形で小学校と中学校がある。これを一体型というか隣接型というか難しいところではある。
- ・一体型というのは、渡り廊下等でつながっていて雨が降っていても人が容易に行き来できるようなものをイメージしていただきたい。

【委員】

- ・隣接型でもよいのではないかという意見もあった。ここで一体型と謳ってしまってもよいのか。この先行事例を見ると、隣接型のようなものもある。そこをどうするのか、検討した方がよいのではないかと思う。

【委員】

- ・この会議に参加して、子どもたちにとっては良い方向に進んでいるのではないかと思う。一体型というのはどういうものなのか、漠然と中学校の横に小学校を持ってくると思っていたが、先行事例を見せていただいて、校舎が渡り廊下でつながっていることや、グラウンドを共有できること、そして、小中学生が常にコミュニケーションをとれることがいいと思う。財政面でも共有できるのであればコスト的に良いのではないかと思う。

【委員】

- ・1年前にこの地区の保護者の代表として指名で選ばれたが、最初は何がなんだかよく分からない中で、まとめるものもまとまらないのではないかという感じしかなかった。1回1回参加していく中で、現状を勉強でき、子どもを持つ親として子どもたちによりよくなるように、学園づくりから始まって、少しずつ形になってきて分かってきたと感じている。

【委員】

- ・この会に参加する前は内容に関して理解していないところが多かったので、会を重ねていくうちに理解をしてきていると思う。しかし、まだまだ理解していない部分も多い。周りのお母さんからは、「統合するのか。」「自分の子どもにいつ関わってくるのか。」ということ聞かれたり、心配されたりしている。特に小さい子を持っている家庭ほど多く、そういうお母さんは小さい子がいて、こういう会議に出てくることができないので、分かりやすい資料で皆さんに見ていただき、自分の子どもたちにとどのように関わってくるのかを分かってもらえるとよいと思った。

【委員】

- ・自分も1年間色々とおさせていただいて、提言の内容としては小中一体型の方向になったということだが、会議の中ではもう少し具体的な意見があって、「城東中の場所がいいのではない」ということや、タイムスケジュールが気になるというような意見が出ていた。そういったところも書いていけばよいのではないかと思う。最終的な方向性として小中一体型といくのはよいが、今後の進め方についてももう少し具体的に明記すればよいのではないかと思った。認定こども園との連携についても触れる必要があるのではないか。

【委員長】

- ・いずれも貴重な意見だった。以下のように整理し、そういう形で進めていきたい。
 - ①基本的な枠組み、骨子としては原案のとおりでよいということに理解した。
 - ②中味について、報告書は一般的に堅いもので読むのもたいへんで難しいものであるが、そこを解決する手立てが必要ではないかということ。例えば、概要版を出すなどして、できるだけ分かりやすいことばを使って進めていきたいと思う。
 - ③隣接型か一体型かきちんとした結論を出していないのではないかということについては、もう一度整理して次回に確認をしていきたい。今の小学校と幼稚園のような形態は確かに近いが、往来するのは大変ということが正直ある。その解決を図るには、渡り廊下のような、雨が降っていても傘をささなくても動けるといいう形がよりよいのではないかと思う。

授業時間については、小学校は45分、中学校は50分である。特例として45分と認められている場合もあるかもしれない。隣接型か一体型かについては、一体型の方向でいきたいと思うが、もう一度そこは確認をしたい。

- ④一体型の表記について、今回のように図を見てもらえば分かると思うが、イメージがわくような何か工夫があった方がよいのではないか。できるだけ入れていきたい。
 - ⑤場所とかタイムスケジュールについてもこの会で話をしたので、できるだけ入れられる範囲で入れていきたい。場所を言ってしまうと、それがありきになってしまう怖さがあるので、経済的な問題や土地の問題などいろいろ出てくるかもしれないし、この委員会の範疇を超えてしまう可能性もあるので少し慎重に検討したい。
 - ⑥こども園との兼ね合いについては、学園化ということで進んでいるので、それをないがしろにすることはできない。個人的な思いとしては、敷地の中やすぐ近くにこども園があれば、保護者としても楽に思う。小中一貫教育と言う形で進めてきているので、あまり深く触れることはないと思うが、近くにあったらよいという文章は入れてもいいのではないかと思う。
 - ⑦今後の進め方について、この会は今年度いっぱい終了するが、教育委員会にこの報告書を渡した後、教育委員会で考えていただき、建設委員会のような会が設置される時には地域の皆さんが代表で入っていただくような形になるのではないかと思う。このことについても可能な範囲で触れていきたいと思う。
- ・委員長からアメリカ合衆国ユージン市（掛川市の姉妹都市）の教育施設について紹介

6 連絡事項

- ・今後の予定について
 - 第8回地域検討委員会 1月18日（金） 午後7時から
 - 報告書案の地域説明会 2月頃

7 閉会